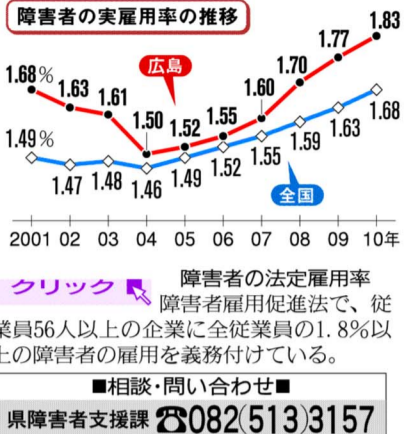


就労と生活 一体サポート 広島県



県は現在、障害のある人の就労支援などの窓口として、「広島」「県」など5圏域の社団法人などを「障害者就業・生活支援センター」に指定している。最終的には、県内を7地域に分けた障害者健康福祉圏域としてすべてで開設を目指す。同センターは、就労面と生活面を一体的に支援する。採用面接や雇用前実習にスタッフが同行。就業後に仕事内容が変わるなどした場合は企業に向いて調整する。生活支援では、食事や金銭管理、健康面でのサポートをする。昨年度は180件の就職を実現させた。

支援の輪をさらに広げるため、県は関係機関のネットワーク強化に取り組んでいる。障害者就業・生活支援センターが中核となり、各障害者健康福祉圏域内にある就労移行支援事業所や特別支援学校、公共職業安定所、市町などをメンバーとする「ネットワーク会議」を設置するのが取り組みの柱である。

企業を対象にした研修会を実施。障害のある人を雇用する上で企業側の工夫や改善点、助成制度などについて情報共有する。すでに「福山市・府中・尾三」の2圏域でネットワーク会議が立ち上がり、おり、今後は他の圏域でも体制を整える予定だ。

広島労働局によると、今年6月1日現在の企業の障害者実雇用率は1.83%と前年より0.06ポイント増加。法定雇用率の1.8%を初めて突破した。6年連続で前年を上回り、過去最高となっている。就労支援の機運は高まりつつあるという。

東部地域障害者就業・生活支援センター（府中市）の金田信之所長（64）は「企業に採用のお願いをするばかりでなく、就労支援に携わる人材育成にも力を入れ、雇用促進につなげたい」と話している。

広島県は「だれもがいいききと生活できる社会」を目指し、障害のある人たちのサポートに力を入れている。人権週間（12月4～10日）に合わせて、5日には県などの主催でヒューマンフェスタを開くなど啓発活動を展開する。行政と民間の連携による就労支援の現状や、障害のある人の日常生活を手助けする補助犬の役割などを紹介し、県民一人一人ができる支援とは何かを探る。



身体障害のある人の日常生活をサポートしている。補助犬は「盲導犬、介助犬、聴導犬」の3種類がある。盲導犬は視覚障害のある人の歩行を補助し、他人の迷惑になる行動を介助犬は身体に障害のある人に、聴導犬は聴覚障害のある人に、介助犬は身体に障害のある人に、電話やブザーなどの音を、公共施設や交通機関、ホテルや飲食店など不特定多数の人が出入りするすべての民間施設は補助犬の同伴を拒否できないと規定。県障害者支援課は「補助犬はペットではなく、体の不自由な人の一部。同伴拒否は、パートナーである障害のある人の受け入れを拒むことを意味している」と理解を促している。

仕事や住む場所など、障害のある人の自己選択、自己決定を支援していくのが県の基本スタンス。障害の有無にかかわらず誰もが自立して生活するために、地域や企業の支援が欠かせない。

働く喜び「社会とつながってる」

就業窓口の積極利用を

障害のある人が当たり前前に働ける社会と、県民の皆さんと共に考えていこう。

県庁に開設したワー

「サポート・ステーション」では、障害のある人に適した仕事内容について検討を重ねている。結果はホームページなどで発信し、企業として関係機関



企業の雇用促進を目指し、広島県が県庁に開設したワーク・サポート・ステーションひろしま

広島県が臨時採用 根気強く業務こなす

県は5月、知的・精神的障害のある人たちに適した業務の検証をし、臨時職員として雇用する「ワーク・サポート・ステーションひろしま」を広島市中区の庁舎6階に開設した。

県の仕事に携わりながら、障害のある人たちに適した業務の検証をし、臨時職員として雇用する「ワーク・サポート・ステーションひろしま」を広島市中区の庁舎6階に開設した。

「仕事をする上で、社会に居場所ができた。広島市内に幸せです。広島の30代女性が充実感をおかみしめる。発送作業を手掛け、県民あての文書も送る。「心を込めて書類を折ったり、封筒の封をしったりしています」。

「精神が不調」との診断で長年悩んでいた女性は4年前に初めて発達障害と診断された。それをきっかけに、自治体が開設している相談窓口を訪れる決心をした。相談を重ねる中で、気持ちが前向きになり、仕事ができるようになった。「思い切って相談して良かった」と振り返る。

女性は一つの作業を根気強く続けるのは得意。だが、「適当にしろ」と

障害への理解 雇用の鍵

4人増え、7人体制となった。具体的でない指示を言われると困ってしまう。仕事の手順を、絵や図で示してもらおうなど見える形の指示が必要だという。

「コミュニケーションも得意とはいえない。相手の気持ちが分かりにくいことがある。そんな時、頼りにしているのが障害のある人を支援するため常駐しているジョブコーディネーターで、女性は自分の考えを周囲に伝えてもらう「通訳」的な存在だ」と話す。

ジョブコーディネーターの芋岡高志さん（47）は「彼女たちは仕事に対して『ありがとう』と言ってもらえることで、社会の中に自分がある、人のために役に立っている実感したい」と強調。「働きたいという思いが1倍強いです」と見守っている。

「業務の内容は何ですか。食品トレーの仕分け作業といった清掃業務や、野菜や果物の袋詰めなどの青果部門、総菜部門の3種類。障害のある人の雇用は2004年のオープン当初から。障害の程度に応じた仕事をしてもらっている。」

具体的な指示が大切

「働きがいはどうですか。根気と集中力が必要とする繰り返しの作業は特に力を発揮してきています。仕事に慣れ、不安を持つ企業にアドバイスを。以前、軽い気持ちで書

「今後は障害のある人の雇用に前向きに取り組みたい」と話す浦島店長

作業前には実際にやってみるなど、手本を示すことが大事。障害に



浦島慎二郎店長に聞く

人権について考えてみましょう 広島県

広島県では、だれもがいいききと生活できる社会の実現を目指し、「広島県人権啓発推進プラン」に基づき、ヒューマンフェスタの開催やラッピング電車の運行など、人権につ

いて理解していただくための取り組みを進めています。この人権啓発推進プランでは、次の通り具体的な人権課題を取り上げています。

- 女性○子ども○高齢者○障害者○同和問題○アイヌの人々○外国人○HIV感染者及びハンセン病患者・回復者等○刑を終えて出所した人○犯罪被害者等○インターネットによる人権侵害○その他

人権週間をきっかけに、人権についてみんなで考えてみましょう。

だれもがいいききと生活できる社会に
12月4日(土)～10日(金)は人権週間です。

寄り添う 気持ちで、救われる心。

犯罪は、ある日突然やってきて、幸せな日々を一時にして奪い去ります。被害者やその家族の心身の痛みは計り知れません。心情を理解しながら被害者の心の声にそっと耳を傾け、支え合い、寄り添う気持ちをもって接することが大切です。

11月25日から12月1日は「犯罪被害者週間」です。

ひとりで悩まないで、まずはお相談ください。相談は無料です。決して相談内容が漏れることはありません。

- 広島県 犯罪被害者等支援総合窓口 / tel.082-513-5255
- 受付時間 / 月～金8:30～12:00、13:00～17:15
- ※面接を希望される方は、事前にご連絡ください。
- 広島県警察 警察安全相談電話 / tel.082-228-9110
- 受付時間 / 110番電話 / フリーダイヤル0120-72-0110
- 公益社団法人広島被害者支援センター 犯罪や事故に遭われた方や家族をサポート / tel.082-544-1110
- 受付時間 / 毎週月・水・木10:00～16:00

※相談受付は、いずれも祝日、年末年始は除きます。

広島県環境県民局県民活動課 tel.082-513-2744

知ってほしい「発達障害児・者」のこと。

生まれながらの脳機能の障害と言われている「発達障害」。自閉症、アスペルガー症候群などの広汎性発達障害、学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)などがあります。知能の遅れを伴う人もいれば、知能の高い人もおり、決して稀な障害ではないことが近年の調査で明らかになっています。そのため、私たち県民一人ひとりが関心を持ち、人間関係や集団生活で困難を感じている子どもや人たちに気付いていくことが大切です。

発達障害って知ってますか？

周囲が理解し、得意を伸ばす工夫を。

発達障害に特徴的な立ち振る舞いには、障害のない子どもや私たち自身の中にも思い当たるものがあります。それゆえに「本人の努力次第で克服できるもの」と、うまくいかない要因を個人の課題と考えがちです。しかし、発達障害のある人には、それらが強く、かつ数多く現れ、相互に影響しあって、強い「生きづらさ」となっています。先天的で生涯にわたる困難であり、本人の努力だけでは解決できない面も多くあります。勤勉さや熱心さ、細部の正確さなど、むしろ発達障害のある人のほうが得意とするところもあります。発達障害とは能力が劣っていることではなく、その独特な感じ方や記憶の仕方などのために、人との関係がうまく作れない状況のことです。周囲が、その人の特徴(個性)を理解して、その人の得意を伸ばす工夫をすることで、お互いに生きやすい社会をつくることのできるのではないでしょうか。発達障害のある人への共感が広がれば幸いです。

広島自閉症協会理事長 小野塚 剛さん

広島県健康福祉局障害者支援課 tel.082-513-3155